＜第２期＞
渋川学区まちづくり協議会
地域まちづくり計画書

令和２年度～令和６年度

~~令和２年２月４日~~
令和４年５月１０日改訂

渋川学区まちづくり協議会

渋川学区まちづくり協議会
地域まちづくり計画

1　目的

渋川学区の目指す将来像を定め、その将来像の実現のために解決しなければならない課題を浮き彫りにし、その課題の解決に向けた取組みを行います。

まちづくり協議会というさまざまな団体などにより構成する組織において、当学区の現状を確認し、地域の強い（良い）ところ、弱いところを再度見つめ直し、さらに住み良い地域としていくために地域住民の皆さんと将来像の実現に向けた考え方を共有し、取組みを進めることを目的とします。

地域まちづくり計画は、５年毎に見直し、渋川学区の将来像実現の一旦を担い、行政と連携した協働のまちづくりを自主的に活動・運営する指針として策定します。

2　計画の位置づけと財源

第１期で５年後の将来像を定め、平成 26 年度から平成３０年度まで、例年継続している基幹事業（ふれあいまつり、運動会、敬老会など）に加え、ふるさとづくり交付金・がんばる地域応援交付金・健康のまち草津モデル事業補助金を活用し、１６テーマの新規事業に取り組んで参りました。この中の４事業（健康福祉事業、清掃ボランティア、防犯カメラの設置、多文化コミュニケーション）については、継続して取り組んでいます。

第２期については、令和２年度から令和６年度を計画期間とし、５年後の将来像を定め、現状の事業の見直しを行ったうえ、地域課題を解決する新規事業を加える計画と位置づけています。財源としては、令和３年度から令和５年度の３カ年に亘り、地域課題解決応援交付金を活用し、新規事業に取り組む予定です。

3　計画の策定体制

地域まちづくり計画は、渋川学区まちづくり協議会に地域まちづくり計画策定委員会（三役４名・部会より選出４名・事務局２名　計１０名）を設置して策定し、理事会で承認します。

4　渋川学区の現状

渋川学区は、市の玄関口となるＪＲ草津駅があり、その周辺には大型小売店舗や高層マンション等が多数立地し、中心市街地の一角を形成する地域であり、令和元年９月末で人口9,６４０人、世帯数4,３１９世帯を有する、市内でも比較的人口が多い学区です。高齢化率は １７.２％で、市平均の２２.０％と比べ低いものの、年々増加傾向にあります。

渋川学区でも、ほかの地域と同様、一人暮らしの高齢者の増加や少子化、核家族化の進行、共働き世帯の増加などに伴い、コミュニティの大切さがクローズアップされるなか、地域のみなさんが互いに連携・協力しながら、

学区の個性が生かせるまちづくりを推進するため、平成２４年１２月に「渋川学区まちづくり協議会」を発足いたしました。

また、平成２９年度から、渋川まちづくりセンターを活動拠点とし、指定管理者としての指定を受諾し、まちづくりセンターの管理運営を開始しました。令和２年度からの第２期指定管理者を受諾しています。

５　地域の課題

渋川学区の特徴として古くからの在所にお住まいの住民と新しく開発された住宅地に転入された住民やマンション住民が、いかに協力し合って“新しい渋川”をつくっていくかが重要課題であり、笑顔でふれあうコミュニティの場の充実を図る必要があります。

また、経済的・地域的事情等から、親同士の交流が希薄化し、子育てに悩む、未就学児を持つ若い世帯が増えています。健康への不安もあり、地域行事への参加もできず、引きこもりがちな一人暮らしの高齢者が増えつつあります。そして、防災訓練事業を平成２６年度から毎年実施してきていますが、いざという時の防災・減災対策や体制づくりを構築する必要があります。

渋川学区をもっと知り、どこで何を行っているかを目に見えるようにし、まちづくり協議会事業の運営における新しい世代の担い手不足を解消する必要もあり、このことは急務となっています。

６　地域の将来像「キャッチフレーズ」

～笑顔・ふれあい・思いやりのまち・渋川～

７　地域の基本方針（重点課題）

① 子育て支援の不足

～子育て支援の地域づくり～

② 健康・福祉への不安

～高齢者の健康福祉を支える地域づくり～

③ 防災・減災対策

～防災・減災体制の構築と人材の育成～

④ 地域コミュニティの危機

～事業の見直しと人材の確保～

８　取組み計画

① 子育て支援の不足

取組み名・目的	取組み内容	実施年度					担当
		R2	R3	R4	R5	R6	
【子育て支援の地域づくり】 子育て世代の悩みを気軽に、安心して、話合い・相談できる機会を身近なところに見つけられる雰囲気（場）づくりを提供	①親子ひろば 未就園児の保護者同士が、情報を共有したり、悩みを相談し合える場を月２回まちづくりセンターを利用し提供する ②リサイクル会 小ＰＴＡと連携して制服や学用品などリサイクル事業を年２回（春と秋）実施する		対応検討 ◎	実施 ◎ ◎	実施 ◎ ◎	実施 ◎ ◎	子ども育成部会
	＜予算額（千円）＞		1,500 →				

※予算措置は、地域課題解決応援交付金を充てる

② 健康・福祉への不安

取組み名・目的	取組み内容	実施年度					担当
		R2	R3	R4	R5	R6	
【高齢者の健康福祉を支える地域づくり】 高齢者が、それぞれに応じた方法で、健康で楽しく暮らせる様、身近な施設・設備・事業などの場づくりを提供	①各種福祉団体の広報支援 老人クラブや高齢者サロン等の広報活動を支援し、孤独を感じている高齢者に周知する ②軽運動グッズ等の事業活用と貸出 高齢者向けのボウリング等の軽運動グッズや回想かるた、認知症予防ドリル等を準備し、まち協福祉事業やセンター高齢者講座で活用し交流を深める ③まちづくりサポーター募集 まちづくりサポーターを募集して事業開催日に支援してもらい地域福祉活動に積極的に関わってくれる人を増やす	対応検討		実施	継続	継続	健康福祉部会
	＜予算額（千円）＞			700			

※予算措置は、地域課題解決応援交付金を充てる

③ 防災・減災対策

取組み名・目的	取組み内容	実施年度					担当
		R2	R3	R4	R5	R6	
【防災・減災体制の構築】 地区防災に関する体制やツールを整える	地区防災計画を策定し、活動体制・連絡体制の整備、防災訓練・避難訓練の実施、災害状況把握と避難判断、備蓄管理等を自助・共助の精神に基づき安全な地区を築くツールを作り住民に周知する		事前研修	防災計画策定	検証 ◎ 見直し	検証 ◎ 見直し	防災計画策定委員会 （仮）自主防災会
	＜予算額（千円）＞市補助金						
【人材の育成】 防災体制の中心となる人材の育成を図る	町内会毎に（仮称）「防災専門委員」を育成する				育成検討	活動	
	＜予算額（千円）＞				150 →		

※予算措置は、地域課題解決応援交付金を充てる

④　地域コミュニティの危機

取組み名・目的	取組み内容	実施年度					担当
		R2	R3	R4	R5	R6	
【事業の見直し】 多くの人に受け入れられる事業へ見直すとともに、その魅力をアピール、理解促進を図る	新規事業を展開するために、既存事業における、継続・縮小・統合・廃止を検討する	対応検討	実施				事業改革委員会
	＜予算額（千円）＞なし						
【人材の確保】 人材を掘り起こすため、多様な人がかかわれるような体制づくりを構築する	地域活動経験者・有識者等のボランティア活動する人材の掘り起こしや人材育成を図る。 必要に応じて、まち協規約改正や組織体制を再構築する。			対応検討			第２期事業改革委員会
	＜予算額（千円）＞				150		

※予算措置は、地域課題解決応援交付金を充てる